

# ビデオ 通信

2021年  
9月6日(月)  
No.4500

月・木曜日発行  
月額：¥11,000(税込：¥11,880)  
発行：飯澤剛 編集：齋藤浩一

**ユニ通信社**

〒106-0047  
東京都港区南麻布 5-2-37  
DEPECHE MODE 4F  
TEL : 03-5422-7515  
FAX : 03-5422-7516  
E-mail : vt@uni-press.net

## パナソニック映像

「チャンネルアートモーメント品川 2021」の映像・配信サービスを担当  
KAIROS で多数のカメラ、マッピング映像、YouTube ライブ配信などを一元制御・管理



パナソニック映像(株)は、8月28日にオンラインライブ配信された、品川の水辺から日本文化を発信するプレミアム水上ライブ「チャンネルアートモーメント品川 2021」(共同主催：一般社団法人 天王洲・チャンネルサイド活性化協会、品川区)における映像/配信サービスを担当した。パナソニックの次世代ライブ映像制作 IT/IP プラットフォーム「KAIROS (ケイロス)」

を中核として、インテグレートドカメラやドローンを含む10台以上のカメラからの映像入力、3つのビルの壁面に高輝度プロジェクターで映し出すプロジェクションマッピング用の映像出力、YouTube Live によるリアルタイム配信への映像出力など、映像系の全てを一元的に運用・制御し、イベントの開催およびオンライン配信をサポートした。プロジェクションマッピングには高輝度プロジェクター(5万ルーメン×2台と3万ルーメン×1台)を使用したほか、次世代無線LAN規格である「WiGig」を使用したリアルタイムIP伝送なども実施している。なお、「チャンネルアートモーメント品川 2021」の様子は、YouTubeの「CANALチャンネル」で視聴できる。パナソニック映像では、今回のような大規模な事例の実績をベースに、同社が積極的に展開する「リモート&ネットワークを活用したイベントサポート事業」をさらにブラッシュアップさせていく考えだ。



### 水辺空間で日本の芸術文化を楽しむプレミアム水上ライブ

「チャンネルアートモーメント品川 2021」は、「天王洲・チャンネルアートモーメント 2019」、「チャンネルアートモーメント品川 2020 (オンライン配信)」に引き続き、天王洲運河上に係留した複数の台船を特設のライブステージとして活用し、



台船上のステージで展開された（左から）大井権現太鼓、パラダンス、オズの魔法使い

運河沿いのビル壁面を利用したプロジェクションマッピングで演出するなど、品川の水辺空間で日本の芸術文化を楽しむプレミアム水上ライブ。

今年は公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会による「東京 2020 NIPPON フェスティバル共催プログラム」として行われ、当初は有観客での開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、無観客&オンライン生配信による開催となった。

台船を活用した天王洲運河上の特設ステージでは、運河沿いのビル壁面3面を利用したプロジェクションマッピングと運河上の屋形船を舞台背景に、地域の伝統芸能を代表して「大井権現太鼓保存会」の迫力のパフォーマンス、しながわ2020スポーツ大使の大前光市氏による和楽器の生演奏で音色豊かに演出されたパラダンス、美翔かずき氏が7役を演じた朗読とコンテンポラリーダンス&ビッグバンドによるミュージカルファンタジー「オズの魔法使い」が展開された。

また、対岸の運河上に展示されたアート作品「とうほくの543の421（こよみのよぶね）」について、監修者である日比野克彦氏が登壇し、大震災から10年を迎え、運河から海へとつながる東北の地への想いを語った。

#### KAIROS で全ての映像を制御・管理



同イベントにおける映像・配信領域を担当したパナソニック映像では、天王洲運河に浮かべた台船の1つに中継・配信ステーションを開設。KAIROSのメインフレーム「Kairos Core 100」やコントロールパネル「Kairos Control」（←写真）、GUIソフトウェア「Kairos Creator」を搭載したノートパソコン「Let's Note」のほか、あらゆる入出力映像をマルチ表示する大型ディ



(上段左から) 撮影に使用した「AG-CX350」、LUMIX「DC-BGH1」、4K インテグレートカメラ「AW-EC150」  
(下段左から) 5 万ルーメンの「PT-RQ50K」、「対岸に設置した AW-EC150」、リモートコントローラ「AW-RP150G」

スプレイモニター、各種カメラのリモートコントローラ「AW-RP150GJ」、ビデオプレーヤーなどを装備。ハンドヘルドカメラ「AG-CX350」、ボックスタイプの LUMIX「DC-BGH1」、4K インテグレートカメラ「AW-UE150」、ドローン搭載カメラなど 10 台以上のカメラ映像やビデオレコーダーの収録映像、テキストコンテンツのほか、運河の対岸にあるパナソニック映像、アート引越センターおよびテレビ東京のビル壁面に映し出すプロジェクションマッピングの映像、オンライン生配信するプログラムアウトなど、全ての映像・配信の信号・情報を KAIROS で一元管理・運用する体制を整えた。

また、3 面のプロジェクションマッピング用プロジェクターとして、「PT-RZ31K」(3 万ルーメン) をセンター用に使用、左右の 2 面には TOKYO2020 用として新国立競技場に導入されている「PT-RQ50K」(5 万ルーメン) を用いて、ステージで展開されるライブパフォーマンスや事前収録映像、イメージビデオなどを、輝度・彩度・再現性の高い映像で映し出した。

さらに、次世代無線 LAN 規格である「WiGig」を活用し、対岸の同社敷地内に設置したインテグレートカメラの映像伝送およびリモートコントロールをワイヤレスで行った。

### 「リモート&ネットワークを活用したイベントサポート事業」をさらにブラッシュアップ

パナソニック映像は 8 月、天王洲の東京制作センター内に「KAIROS スタジオ」を開設し、「リモート&ネットワークのイベントサポート」を積極的に推進している。

同社 取締役の竹内誠一氏は「リモート&ネットワークを活用したイベントサポート事業」でこれだけ大規模な案件を扱うのは初めてです。今回、対岸のインテグレートカメラを含めてリモートの制御および映像の IP 化など、Kairos を核としたビデオ制御がさらに強化できたと考えています。今後さらにブラッシュアップしていきたい」とする。また、「8 月中に今回の案件を含めて KAIROS を核としたイベントを 2 件実施できました。これらをベースとして、今後はさらに広くイベント開催をサポートしていくための営業を強化していきたい。次回の「キャナルアートモメント品川」では、もう少しリモートの部分を強化し、ビデオの制御(サブ)をパナソニック映像 建屋内の「KAIROS スタジオ」に設けることができると考えています」と話している。

◇パナソニック映像 <https://panasonic.co.jp/cns/pvi/>